

平成二四年三月八日（木）午後

衆議院財務金融委員会

速記録（議事速報）

○海江田委員長 次に、豊田潤多郎君。

○豊田委員 新党きづなの豊田潤多郎でございます。

私も五分しかありませんので、二点、総理に申し上げて、もし見解があればお聞きするということと。

第一点は、私がずっと予算委員会でも、その以前から、もう昨年からは、半年以上前から言ってきたことですが、消費税の増税の前にやるべきことがあるのではないかと、それをちゃんとやることから消費税の議論をしてくださいということとかねがね申し上げてきました。具体的には、統治機構、組織の見直しを含む徹底した無駄の排除、それから予算の効率化、これによって、まず出せるだけの予算、無駄な歳出の削減、これを行った後に初めて消費税の論議に入るべきであって、しかも、去年の秋ぐらいから急に総理は、つけ焼き

刃のように、政治と行政の一体改革も含めてというようなことをおっしゃっていますけれども、口だけではなくて、本当に実行する、実現、実行した後初めて消費税の論議をしていただきたい。これが第一点です。

ちなみに、一月のNHKの世論調査では、七一・二％の人が、消費税の増税の前にやるべきことがあると政府にそれを強く求めているという調査がありますので、ぜひそのことを総理は肝に銘じていただきたい。

二番目に申し上げたいのは、交付国債の話です。先ほど、私は、総理の来られる前に、ちよつと実績というのを質問しましたが、もともと交付国債というのはこんな年金の穴埋め財源に使うようなものじゃないんです。私は、旧大蔵省、今の財務省ですが、ずっと予算に携わってきて、交付国債を発行するときはどういうときにそれが使われるのか、それを十分私は認識してやってきましたつもりです。今や財務省の財政規律というのもおかしい。それはもう背に腹はかえられないということになっていくのかもしれないけれども。

なぜ、では、ことしになって突然、交付国債の話が出てくるんですか。去年だって、年金の財源の繰り入れの話はあったんです。だから、そういうつけ焼き刃の、そういうことをやらずに、正直に、財源はもうない、ないならしないでカットして、これだけの歳出の削減をやっていく、そういう姿勢を示した後に初めて消費税の増税をしてもらいたい。

この二点を総理に申し上げて、残り二分ですけ

れども、答弁があればよろしく願います。

○海江田委員長 短目にしてください。

○安住国務大臣 御指摘は御指摘でございますが、交付国債をするときに、私どもも、やはり大きいお金でございますので、これをやるとなると、やはり歳出の削減にもなかなか、二兆円を超える歳出削減をどうやってやるのかということについては、議論をしましたが、やはりそれはなかなか難しいということで、交付国債を今回やらせていただきました。これは、自民党も提案しておりますけれども、やはり恒久的に安定した財源を確保するということを第一に考えて、最善の選択をしたわけでございます。

○野田内閣総理大臣 交付国債について今財務大臣が答弁されましたけれども、その前に、まず、税金を引き上げる前にやるべきことがあるだろうという御指摘でございますが、それはそうだというふうにご受けとめております。

したがって、いわゆる事業仕分けとか提言型政策仕分けとかやってまいりました。その結果、これは政府・与党、総力を挙げてやってきたことでありますけれども、平成二十二年度は恒久財源とワンショットのお金を含めて九・九兆円の財源捻出をしています。翌年度も六・数兆円出しています。ということの努力はしてきているということ、その当時のメンバーでございますので、正当な評価をしていただきたいと思います。

しかも、二〇一四年の四月に一回目の消費税率を八％に引き上げる前に、政治改革、行政改革、今私どもがメニューとして挙げているものは少な

くとも実現をするということを前提にして、今議論をさせていた、だいています。それは、国会議員の定数の削減の問題であるとか、国家公務員の人員費の削減であるとか等々を含めて、あるいは特別会計改革、あるいは独立行政法人改革、今メニューとして挙げているものについては消費税を引き上げる前に実行するというのを、しっかりとやっつけていきたいというふうと考えております。

○豊田委員 時間がもうありませんので、最後に申し上げておきますが、総理にしても、それから財務大臣にしても、今の制度、仕組みの中の努力をされているというのは、私はそれは評価をしたいと思います。

しかし、ここまで財政がこれだけの赤字になって、危機的状况になっているときに、単に制度上従来の制度に乗った、その延長線で努力したってもうだめなんです。制度の根本的の変更を含めて、国と地方を含めて、その制度の変更を行った上で、思い切った歳出の削減、無駄の削減を行っていくということをぜひ進めてもらいたい。

それが二年半前の民主党が国民の皆さんに約束したことである、それを肝に銘じていただきたいということ、最後に申し上げて、質問を終わります。